

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106332		
法人名	社会福祉法人 岡山中央福祉会		
事業所名	グループホーム さっちゃん家		
所在地	岡山市東区金田819		
自己評価作成日	平成25年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106332-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成25年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの生活を大切にし、その人らしく暮らせるホームであるように支援しています。家庭的な雰囲気の中で決められたスケジュールにと捉われないこと、その方の生活習慣を重んじ地域との関わりを持ちながら過ごしていただいています。また、終の棲家となるように入居者を中心に考え、ご家族、医療関係機関との良好な関係と職員のスキルアップを目指しています。今回、初めて看取り支援を行い、チームケアの重要性を再確認しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は、このホームが10年目を迎え、2013年度の方針と照らし合わせて見せてもらうことにした。今まではこの近辺にはこのホームとデイサービスが単独で運営していたが、小規模の特養ホームと多機能ホームも近くに設立され、高齢者の介護に関するネットワークが構築できた。地域との連帯は10年前にこのホームを設立する際にホーム長たちが点在する家一軒一軒を訪ねた上で、会合も積み重ねて強い絆を築いた。後に地域密着型の施設に運営推進会議の制度が国から示されたが、このホームはそれに先駆けた素晴らしい地域との関係を築いていたが、ホーム長は“今”を満足していない思いに私たちの方が驚いた。このホーム長の気持ちは利用者に対する思いにつながる。利用者一人ひとりの心理的な面までしっかり見極め、本当の満足、又は不満を見つけてその人らしい生活をさせてあげ、ホームが最後の居場所になるようなホームづくりを目指していた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、事業所理念の「その人がその人らしく」に基づいた方針を職場会議で話し合い、職員全員で一年間の総括をし方針を立てている。事務所にその方針を掲示し共有して実践している。	“気を配る私の心が杖となる”職員が考えた標語・母体法人の“21世紀理念”・ホーム独自の“今年度の方針”を掲示し、意識して日々の支援に反映するよう心掛けている。母体法人・ホーム・職員それぞれの考え方に一貫性があり、現場に浸透で来ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し回覧板で地域の情報を得ている。公民館活動に参加したり季節行事などにも互いに行き来している。ホーム庭の剪定・害虫駆除・草取り、畑の手入れなど定期的な協力がある。	ホームの祭り・餅つき・とんど焼等、ホームと地域の合同行事も定着した。何かあればいつも地域のホーム応援隊“友の会”やボランティアが、全面的に協力をして支えてくれる。地元との親密は交流は当ホーム最大の特色である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で情報を発信したり、日常の利用者との触れ合いから認知症を理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で評価結果を開示している。毎回、取り組み状況など報告し意見交換をしている。	「町内に軽い認知症で独居の人がいる。見回りや声掛けはしているが心配だ」運営推進会議ではホームの枠を超え、地域の気がかりを相談している。ホームは地域の認知症支援の拠点になっていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者へ参加依頼するが参加がない。地域包括センターからは参加があり協力を得ている。	地域の独居で気になる老人についての相談を受けて、地域包括支援センターに伝えたり、逆に包括支援センターから利用者の照会がある等、互いに連携できている。ホームは市の担当者への運営指針会議参加も働きかけている。	運営推進会議議事録を見ると、地域の認知症高齢者への気づきの発言があり、皆で対応を討論している。会議に出席すれば、市の担当者も地域の実情が良く判り、参考になると思う。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、身体拘束に向けた学習会を進めていくようにする。	出入りに口を鈴をつけてさり気なく見守り、玄関施錠もなく出入り自由。近所の人や家族も気軽に訪れ、利用者も庭や畑に出掛けて、全体に開放的な雰囲気だった。職員間の話し合いで、メンタル面を共有し、気持ちを平穏に保つよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇委員会を設け職員全員で虐待防止に努めている。委員会で標語を決め意思統一している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時には、地域包括センターの協力を得て支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、丁寧に説明し、理解納得がえられるように十分な説明を行っている。改定時には、家族会において文書にて同意を得ている。		
10	(6)	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等申立先の第三者機関があることを知らせ連絡先を伝えている。法人内にも苦情・相談窓口があり意見を反映している。	毎月個別の便りを送付して様子を伝え、家族とはその都度相談し合っ、情報交換している。利用者が退所した後も家族の訪問や連絡がある等、家族との関係は良好である。家族との面会や来訪した時に話し合った内容を克明に記録しているノートがあり、職員に申し送られている。このノートは素晴らしい財産だと思った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	総括・方針会議で代表者と意見を交わしている。職場会議、各種委員会、カンファレンスで意見や提案など出し運営に反映させている。	毎月の職員ミーティングでは、ホームの経営報告をして、職員と共に話し合いながら運営している。職員たちは気付きをその都度相談しながら、明るく仲良く働いていた。自分たち一人ひとり、みんなのホームの気風がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は状況を把握している。労働組合があり交渉の場が確保されている。全職員が個人目標を立て就業しており、2度の面談を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の力量にあった必須研修がある。外部研修にも参加するような働きかけがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や集会への参加で自由に同業者との交流ができる。その中でサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴をよく知りアセスメントの充実を図るようにしている。職員全員が共有し信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること不安なことなど詳しく聞きとり、安心できるように誠意をもって十分な説明をするように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援が必要かどうかを見極め、職員全員で密なカンファレンスを行い、支援の対応を図り、インフォーマルの支援の要請にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など一緒に行いできないところは、助け合っている。お互いに支え合う関係にある。		
19		職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべく面会に来ていただけるような声かけや機会を設けている。面会時には、生活の様子を伝えアドバイスをもらったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に家族と出掛けている。前施設へ訪ねて行ったり、移って行かれた方が訪れたりして関係の継続に努めている。	「自分とこで食べるくらいは毎年作とった」慣れた手付きで、ホームの畑でほうれん草を収穫しつつ職員に指南する人も居た。実家までドライブしたり、気軽に墓や家を身に行く等、これまでの生活に配慮した支援が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者の性格や利用者同士の関係の把握をしており、利用者が自由に過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院にかわられても、時々様子を見に行ったりしてこれまでの関係を大切にしよう努めている。途切れていても連絡を取ったり訪ねて来たりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切にしたい事、やりたくない事など考え統一した生活でなくその人の希望を一番に思い努めている。	「こんな絵、見るの好き」雑誌の絵見てつぶやいた事をちゃんと捉えて、家族と相談して美術館へ行った。ホームは“個別ケア気付きシート”を作成し、利用者の思いを拾い上げ、支援に活かしていた。	利用者の思いや願い、又は、嫌悪等に結びつく心の動揺を出来るだけ日常の状態から気付くことが望ましいと思うが、この職員の気付きに関しては以前からの課題として取り上げており、今後も継続している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	部屋に前から使っていた家具や物など置き少しでも馴染みのある暮らしをしてもらえるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや一人ひとり行動、表情、訴えなどの変化に注意している。丁寧な記録と気付きシート、カンファレンスで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に本人の様子など話し意見要望など聞き、それに基づいてより良く過ごして頂けるようにアセスメントを行いカンファレンスで情報交換している。十分なモニタリングを行ったうえでケアプランに盛り込んでいる。	管理者と計画作成担当者が本人・家族から話を聞いてプランを作成し、全職員で様子を見ながら検証している。職員担当制のシステムにして、担当職員の報告書をベースにカンファレンスして、何かあればその都度、定期的には3ヶ月に1回プランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録に詳細に記録し、特変などは職員申送りノートで情報を周知したり、個別状況と気付きシートなどカンファレンスで情報共有して実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して必要だと思われるサービスを取り組んでいる。たとえば、アニマルセラピー、クラブ活動などに参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	友の会、公民館、地域ボランティア、慰問など地域との関わりを大切に楽しめる事柄を盛り込み暮らしが豊かになるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、かかりつけ医と事業所の良い関係を保ち連絡を密にとりながら適切な医療が受けられるように努めている。	ホームの協力医が定期的に往診に来て、必要であれば24時間いつでも対応してくれるもで安心だ。母体法人の訪問看護ステーションも、柔軟に何でも相談できて心強い。医療連携体制は、しっかり構築できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護を受けており、情報や気付きなどを伝え相談している。日常的に尋ねたり相談もでき、急変の場合は、連絡し対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療関係者と情報を共有するために必ず介護添書を出しており、病院からも連絡があり互いの情報交換ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時から重度化について伝えており、重度化した場合や看取りについて事業所のできることを説明している。家族から意向を早くから確認し支援している。	“医療連携及び看取りについての同意書”を基に、家族とホームでの介護について確認し、認識を共有している。今まで該当するケースがなく、ホームでの看取りはなかったが、今年初めてのターミナル経験をした。これからも出来る限りの支援をしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを整えており、すぐに見えるよう日報にファイルしている。応急手当や初期対応の訓練を進め実践力を身に付けていくようにする。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを整えており全職員が身につけており、地域の協力体制があり、実際に避難訓練の参加が得られている。	地域の人や利用者も参加して、同一建物内のデイスサービスと合同の避難訓練を年2回実施した。消防署の指導・助言も受け、運営推進会議でも話し合っ、火災だけでなく、地震・台風・津波の時のマニュアルを作成し、避難場所も決めた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会などをもち学習をしているが、今後も職員の質の向上にむけ職員全員のスキルアップに努める必要がある。	「うちは旅館しとった」元旅館のおかみさんは鍋奉行。家事の好きな人は野菜のしょうやく・下処理等、それぞれができる仕事に精を出す。その横で、今までいっぱいしたからもう家事はしたくない人達が、のんびりテレビを見ていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間をかけて、利用者の希望が叶うように、好きなことなど本人の答えやすいような言葉かけに気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースでしたいことを自由にしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服など選べれる人には選んでもらっている。髪形・髪染などその人の希望に添った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものなどを聞いたり、料理本を見て献立を立てることもある。準備や盛り付けを一緒にしている。	「何を付けなくても美味しい」利用者が畑から収穫したほうれん草は、すぐにおしたしになって食卓に登場。皆で手分けして作った野菜たっぷりの鍋料理を食べつつ、ほかほか幸せ気分になる。食事は皆の楽しみだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖分をなるべく少なくし季節の野菜を多く摂取するようにしており、水分量が必要な時には、記録しながら適量摂取できるようにお茶ゼリーなどで提供している。一人ひとりの習慣、嗜好は把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣に合わせて無理をせず1日1回は職員が声かけ口腔ケアをしている。個別に歯科往診を定期的に受けている利用者がいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターン、習慣に合わせた支援をしている。	車いす対応、ゆったり広いトイレは手すり完備で、自動点灯。安全への配慮がある。便意や尿意がないと言われ入所した人が、タイミング見てうまく声掛けトイレ誘導するうちに改善する等、よくなった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や偏った食事にならないように努め、適度の体操を取り入れ腸の動きを良くするよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の嫌いな人にはタイミングをみて楽しく入れるように入浴剤など取り入れ工夫している。	基本的には2日に一度入浴できるよう誘っているが、毎日入浴する人や3～4日に一度の人も居る。本人の希望を聞きながら、無理強いせず、気持ちに沿った支援を行っている。入浴はマンツーマンの楽しいおしゃべりタイムとして大切に考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせて体操やレクなどおこない、状況に応じた休息を促している。天気の良い日は散歩や外気浴などおこない安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬について全職員が把握しており、服用しにくい場合は粉碎している。状態変化については、医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などできることで役割を持っている。その人の好きなこと、興味を示されたことへの支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的には、一人ひとりの能力に応じた外出支援に心がけている。小旅行、誕生日外食、地域の1日旅行など参加した。	花見等の季節の行楽、一日旅行等、行事に組んでの外出以外に、その日その時その気になった人でドライブ・買い物・喫茶等、気軽なお出かけもある。その人に合ったフットワークの良い外出支援を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理できる人は、所持されており外出などで使われることがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかける人はいないが、手紙のやり取りの支援はしている。本人で郵便局に投函されることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調には気をつけ空気清浄機を導入し清潔に保っている。季節の草花や壁画などを飾り四季を感じれるように工夫している。	「これから紅葉がきれいになるなあ」さりげなく置いた紅葉の生け花を見ながら話が弾む。壁に掲示した貼り絵の共同作品は皆の自慢だ。独りが好きな人は、落ち着ける一人机に、仲良く2人でソファに座る人、皆でわいわい食卓囲む人など、それぞれのお気に入りの場所で寛いでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	物理的には難しいのでテーブル、柱などで小さな空間をつくるように工夫している。一人ひとり思いどおりに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたタンス、椅子、テーブルなど持込むことで、今までの生活が可能な限り継続できるようにしている。本人が居心地よく過ごせれるよう相談しながら支援している。	ベッドや畳、その人の生活様式に合わせた配慮がある。習字作品や写真を飾る人、何も置かない方が落ち着く人等、その人らしい居室になっている。リビング・庭・居室と利用者達は思い思いに行き来していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷うところには何か物を付けたり、分かりやすいように物を移動するなど、その時の状況に合わせた環境づくりの工夫をしている。		